【1000DL 突破特典SS】

タイトル：泥酔デレ部下とぬるぬるお風呂せっくす♡

お酒でとろとろになった唯くんが寝落ちしてしまった後、私はお風呂に移動していた。
室内に響くシャワーの音…その音に交じり、小さくガチャ…という音が聞こえる。
それを認識したその瞬間だった。

ぎゅううう…っ♡♡♡

私よりも一回り大きな体に、背後から抱きしめられる♡
ちらりと後ろを見ると、頬っぺたをぷくっ♡と膨らませた唯くんと目が合った。

「んうぅ…先輩、なに1人でお風呂入ってるんすか。起きたら隣に先輩居ないんすもん…すげー悲しかった。」

そう言いながら唯くんは、私の首元へ頭をぐりぐり♡と押し付ける。

「んぇ…？あぁ、酔いなんて冷めたから、別にお風呂入っても危なくないっすよ。だから、一緒に入るぅ…んうぅ…先輩といちゃいちゃしながらお風呂入るっす…」

でも普段の生意気ツンツンな唯くんとは様子が違うことが丸分かりで。
私は唯くんを引きはがそうとするも、唯くんは頑なに抵抗してくる。

「むぅぅぅ…っ！！！だからっ！でんでん酔ってらいれしゅよぉ！！！！！」

遂にとろとろの口調を披露した唯くんへ、私は酔い覚ましの”顔面シャワー攻撃”をお見舞いする。

シャァァァ！！！

「おぼ、ぼぼぼッ！！〜〜っぷは！けほ、けほ…ッしぇんぱ…っひどいっすぅ…！こんなことされても、諦めないっすよぉ…んー…あ、良いこと思いついたぁ。俺は座っとくんでぇ、しぇんぱいが俺の事洗って下さいっす♡」

私の攻撃で涙目になりながらも、酔っ払いの唯くんは勝手に話を進めてお風呂椅子へと腰掛ける。
私に洗ってもらう…と言いつつも、唯くんは何故かボディーソープを私の体へと塗り付け始めた。

「はーいっ♡しぇんぱいのおまんこにっ♡あわあわーっ♡ぬりぬりーっ♡んへへっ♡…んぇ？そうっすよ、俺の体ぁ♡洗ってもらうっす♡んふー…♡こーやって…んしょっ♡」

唯くんはそう言いながら私をぐい…っ♡と持ち上げ、自分の膝の上へと跨らせた♡
そしてそのまま、頬っぺたを赤く染めながら上目づかいでおねだりをする…♡

「しぇんぱいのぬるぬるおまんこでぇ…♡♡俺の体あわあわ♡ごしごし♡ってしてぇ…？♡♡」

そう言いながら私のお尻をぐいっ♡と掴むと、あわあわで体を滑らせるように私の体を前後に揺らし始めた♡

へこ…っ♡へこ…っ♡と強制的に動かされる腰…♡
ぬりゅ…♡ぬりゅ…♡♡と擦れるふわふわで気持ちいい泡…♡
そして…♡

…こりっ♡…こりゅこりゅっ♡♡

私の体と唯くんの体の擦れ合う場所…唯くんのガン反り発情おちんぽと♡私のぬるぬる勃起クリちんぽが擦れ合ってしまう♡
その快感に私のおまんこはひくひくっ♡腰はへこへこっ♡と震え、口からはド下品おほ声が漏れ出てしまう♡

「あぇ♡しぇんぱぁい♡かぁわいいっすぅ♡えへへっ♡」

ド下品な反応をする私を唯くんは愛しそうに見つめながら、ビン♡ビン♡とバキバキ勃起おちんぽをますます硬く反応させる♡♡

ぐりゅ…ッ♡こりゅこりゅっ♡こりゅっ♡♡

「〜はへぇ…っ♡俺のビンビンガン反りおちんぽとぉ♡先輩のぬるぬるおまんこ♡えへぇ♡あわあわでぇ、ちゅー♡ってしちゃったっすぅ♡おぉん♡しぇんぱぁい♡あわあわ気持ちいっすね♡♡ねぇ、もっと♡もっとごしごしってしてぇ？♡ん♡えい…♡えい♡えいっ♡えへへっ♡」

へこ♡へこっ♡♡ぬりゅ♡ぬりゅっ♡♡
こりゅっ♡こりゅっ♡こりゅっ♡こりゅっ♡♡

「んおおぉ…っ♡しぇんぱ♡気持ちいっすぅ♡んぐッ♡あわあわおまんこ♡おぉ♡ごしごし気持ちいぃ…♡♡あぁ♡びくびく♡ってしてるぅ♡えへへ♡気持ちいいね♡おぉ♡しぇんぱ♡可愛いっ♡可愛いっすぅ♡んおおぉ♡♡♡」

快感でどんどんとろとろになって来ている唯くんは、とうとうド下品腰へこを始めてしまう♡
ぬるぬるおまんことビンビンガン反りおちんぽの擦れる勢いが激しくなり、私の腰がビクッ♡と仰け反ったその瞬間だった。

ぐにゅ…っっ♡♡ぬぷッ♡ぬぷぬぷぬぷッッ♡♡
〜〜ッどぢゅんッ♡♡♡

ガン反りおちんぽの先っぽが私のぬるぬるおまんこの入り口に引っ掛かり♡おまんこの気持ちいいところずりゅずりゅっ♡と擦り上げながら一気に一番奥まで入ってしまった♡♡

「ッお！？♡しぇんぱッ♡♡〜〜あへッッッ♡♡♡♡」

〜〜っびゅる♡♡びゅるるるっ♡♡♡びゅくっ♡♡♡
びくんッ♡♡びくびくびくッ♡びくぅッ♡♡♡

突然の強烈な快感に、私達はなすすべもなく同時にドスケベアクメをキめてしまう♡
唯くんはそんな快感を逃がす様に腰をへこぉ…♡へこぉ…♡と揺らしながら、私の耳元でド下品な声を漏らす。

「は、へ…っ♡んお、おぉぉ…♡♡しぇんぱぁい…♡はへぇ…♡お♡おまんこのナカぁ♡♡あぇ♡とろとろで気持ちいいっすぅ…♡はへ…♡はへぇ…♡えへへぇ♡気持ちくってぇ♡頭ぁ♡ふわふわすりゅぅ…♡んへ♡えへへへぇ…♡♡♡」

酔い、お風呂の温かさ…そして強烈なおちんぽアクメの快感で♡ただでさえとろとろだった唯くんの目がますますとろん…♡と溶ける。
そんなふわふわな唯くんの視線は、とあるモノを見つけることにより止まった。

「…あぇー？♡しぇんぱぁい…？なんでお風呂におつまみなんか持ち込んでるんすかぁー！♡ずるいっすぅ！♡俺も食べたいっ♡んぁ、えへへ♡いったらきまぁーっす……んぁむ♡んふふっ♡」

とろとろで頭が回らなくなった唯くんは発見したおつまみ…私の敏感勃起乳首をこりこりっ♡と食べ始めたのだ♡

「んん♡こりゅ…っ♡はへ…♡♡これ♡美味いっすねぇ♡えへ♡ぢゅるるるっ♡んうぅ♡なんかこりこり♡ってしててぇ♡んー♡れろれろ♡ちゅぽっ♡食べてたら♡おちんぽ気持ちよくなってくるっす…♡んー♡ちゅぽ♡ちゅぽちゅぽっ♡へへ♡なんでだろー♡♡んへへー♡ちゅぽっ♡」

敏感乳首を美味しそうに食べられ、乳首に…♡腰に…♡おまんこに…♡♡
びく♡びくびくっ♡と快感が走り抜けて甘イキをしてしまう♡

しかしとろとろの唯くんはそんな事には気づかず、快感を求めて無意識にド下品腰へこを再開した♡

ぬぢゅっ♡ぬぢゅっ♡ぐぢゅっ♡ずぢゅっ♡♡

イキっぱなしおまんこをガン反り勃起おちんぽで擦られて♡敏感勃起乳首をちゅぽ♡ちゅぽ♡としゃぶられて♡♡
私は唯くんの上でおほ声を垂れ流しながら、びくびくびくっ♡♡と痙攣アクメをキめ続ける事しか出来ない♡♡

ぬぽっ♡ぬぽっ♡ずぽっ♡ぢゅぽっ♡♡

「ちゅぽ♡ちゅ♡ちゅぽ♡んあぇ♡しぇんぱぁい♡ふふ♡ドスケベな声止まんないっすね♡んん♡ぢゅるるっ♡んへぇ♡♡可愛いっすぅ♡あー…♡やば♡んんっ♡しぇんぱいが可愛すぎてぇ♡んへぇ♡♡俺のビンビンおちんぽ♡もー限界っす♡んん♡」

ぬぶっ♡ぢゅぷっ♡ぐぷっ♡ぐぷっ♡♡

「あー♡イっちゃう♡しぇんぱいのあわあわおまんこで♡おっ♡イっぢゃうぅ♡んんっ♡一緒にイって？♡イって？♡イって…ッ♡♡〜〜っあぁぁもう無理ぃ♡♡しぇんぱっ♡イくっ♡イくっ♡イくイくイくイくぅ……っ♡♡♡おおおッッッ♡♡♡♡」

どぷ…っ♡♡びゅるるッッ♡♡びゅるるるるッッッ♡♡

びくッ♡♡びくびくっ♡へこぉっ♡♡♡

イきっぱなしおまんこの一番奥へ♡唯くんの濃厚おちんぽミルクを注ぎ込まれ、私はド下品痙攣アクメをキめながらイってしまった♡

唯くんはそんな私を愛おしそうに見つめながら、首元へと顔を埋め…

「はひ…っ♡しぇんぱぁ…♡きゅんきゅんおまんこぉ…♡あったかぁい…♡はへ…♡なんらかぁ…♡ほ…♡おほぉ…♡からだぁ…あちゅ、い……んきゅう……――」

そうふわふわと言い残し、ぐでん…っと私にもたれかかりながら気絶してしまった…

慌てふためく私をよそに、幸せそうな顔で気絶する唯くん。

この後は…イきっぱなしで震える体のまま、唯くんをお風呂から連れ出して…ベッドへ寝かせて…熱を冷ましてあげて…とにかく大変で。

……次は私が唯くんをパシってやる、そう心に誓ったのだった。